

神奈川県金融経済概況（2015年12月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もと持ち直しつつあるほか、輸出は持ち直している。設備投資は増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善している中で、個人消費は天候要因から一部に弱めの動きがみられる。この間、住宅投資は改善のテンポが鈍化しているほか、公共投資は大型案件のみられた夏頃までに比べて減少している。

金融面をみると、貸出は足もと前年比での伸びが高まっている。預金は引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もと持ち直しつつある。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックや国内向け乗用車が低調な一方、北米向けが好調なことから、足もとでは横ばい推移となっている。
- ・ 素材関連は、窯業・土石などが弱めの動きとなっているものの、化粧品などの化学製品が引き続き堅調なほか、石油製品も持ち直しており、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスの減少が続いているものの、自動車向け製品や外需向け基地局通信装置などが増加しており、全体としては足もと持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、外需向け建機やはん用機械類の減少が続いているものの、半導体等製造装置が増加していることなどから、下げ止まっている。

(2) 輸出： 持ち直している。

- ・ アジア向けなどに一部弱い動きがみられるものの、北米向けやヨーロッパ向けが自動車を中心に増加しており、全体として持ち直している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 12月短観における、15年度の設備投資計画は、新興国経済の不透明感などから一部投資を見送る動きが引き続きみられるものの、製造・非製造業ともに業容拡大を企図した能増投資や新拠点・新店舗の設置が計画されており、全産業ベースでは大幅な増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 11月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.19倍と、前月の水準（1.14倍）を上回ったほか、10月の現金給与総額は前年比+3.5%となった。また、7-9月期の完全失業率は3.4%と、4-6月期（3.6%）から改善した。

(5) 個人消費： 天候要因から一部に弱めの動きがみられる。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調なもの、天候要因から衣料品や身の回り品が振わず、弱めの動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心として堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、4Kテレビや高機能家電は引き続き堅調であるものの、天候要因から暖房器具等が振わず、全体として弱い動きとなっている。
- ・ 新車登録台数は、一部の新型車投入効果などは持続しているものの、軽自動車の集中的販促活動の反動等の影響が残っており、全体としては持ち直しが遅れている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部にまだ弱い動きも残るが、多くの地域で堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 改善のテンポが鈍化している。

- ・ 着工ベースで見ると、ウェイトの大きい貸家が足もと弱めの動きとなっている。

(7) 公共投資： 大型案件のみられた夏頃までに比べて減少している。

- ・ 11月の公共工事請負額は、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 足もと前年比での伸びが高まっている。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、資金需要に業種の拡がりが見られることから、全体では足もと前年比での伸びが高まっている（貸出金末残前年比： 9月+1.7%→10月+2.2%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利： 9月1.365%→10月1.362%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウェイトを占める個人預金で安定した伸びが持続しているほか、法人預金も伸びていることから、引き続き増加している（実質預金末残前年比： 9月+2.8%→10月+3.4%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。